

シメ



室内にいる私の目に、こちらに向かって飛んでくる小鳥の影を視野の隅で捉えていました、ガラス戸の前で大きく翼を広げた瞬間にドスンとガラス戸に衝突しました。2枚ほどの羽毛がパッと散りました。本体は墜落しました。室内から見てみますと、落ち葉の保護色のように、ちょっと見にくかったのですが、小さな溝にうずくまっておりました。「シメですな」と斉藤さんが同定しました。そこは斉藤リンゴ園の斉藤邸の居間でした。芝さんと私とで、台風でほぼ全滅した今年の惨状を嘆きつつも、来年の取り組みを話し合っていた最中の出来事でした。私は話を中断しまして、カメラを抱えて外に出ました。近づいてよく見ますと嘴からまともにガラスに衝突したらしく、嘴が少しゆがんで見えました。じっとうずくまりまして、目をしばたいておりました。「こいつは助からないな」と思いましたが、しっかりと撮影はいたしました。何しろシメをこんなに近くで見る機会なんぞは、もう二度とないかもしれないのであります。

シメはイカルの子分のような感じがします。普段は樹木の梢あたりにたむろしておりますので、双眼鏡でもなかなか観察できにくい存在なのであります。過去に幾度か出会ってはいますが、いつも遠望なのであります。部屋に戻りまして話の続きを終え、辞去する際に芝さんと確認に行きますと、まだ同じ場所におりました。もっと近くから撮影できると思いつつ、カメラを取り出しておりましたら、芝さんが捕まえようとしたのでしょう、手をふれた瞬間に、パッと飛び立ちましてリンゴ畑に消え去りました。さ

すが野生の逞しさでした。あの勢いならば、蘇生するかもしれないと望みを持った次第でありました。

「よくあることですか」との私の質問に「いや、めったにありません」との斉藤さんの答えでした。とはいえ、鳥がガラスに衝突することは、しばしばあることなのです。窓に鷹の姿を貼り付けてあったりして、予防してあるガラスを見かけたりします。飛ぶスピードから推察して衝突の衝撃と心理的なショックもありまして、ダメージは大きいと思うのであります。助からない場合の方が多いと思いましたが、ご冥福にならないことを願いつつ、リンゴ園を後にした次第でありました。

それにしても今年の台風は猛烈でありました。洞爺丸台風以来の大被害をもたらしました。森の荒れ具合は回復にあと数10年はかかるものと思われる次第であります。